

認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成22年3月
滝川市（北海道）

I. ポイント

○計画期間;平成20年3月～平成25年3月(5年1月)

1. 概況

認定基本計画に掲げた主な進捗状況については、住みよい生活ステージ形成において高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅建設事業を着工した。また商店街協働コミュニティ形成においては、市民有志による「たきかわスウィーツアクションプログラム」が、プロジェクトとして立ち上がり、季節をテーマに地元農産物活用したケーキなどが地域住民に好評を得てきている。また、回遊・滞留ルート形成においては、商店街拠点づくり事業及び賑わい再生ロード事業が2年目を迎え、着実に賑わいの創出が図られている。

中心市街地をめぐる現状については、依然として厳しい経済情勢により商業力の低下はしているもののチャレンジショップから独立開業者がでるとともに空き店舗で新規創業が見られるなど明るい兆しも見えてきている。

また、NPO法人をはじめとする市民活動や商店街の青年経営者によるコミュニティ活動が徐々にではあるが活発化してきており、連携ならびに協力体制が芽生えつつある。

郊外に位置する大規模商業施設であるアクロスプラザ(平成19年10月オープン)の中心市街地への影響は、オープン当初よりも少なくなっているものと思われる。

高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅建設事業など、基本計画の主要事業は、ほぼ計画通りに実施されており、掲載する24事業のうちソフト事業など23事業が事業実施中、1事業が未着手の状況である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	見通し
街なか居住推進	街なか居住人口	2,660人 (H18)	2,800人 (H24)	2,752人 (H21)	①
市民活動の活性化	コミュニティ施設等 利用者数	64,773人 (H18)	112,000人 (H24)	88,020人 (H21)	①
賑わい創出	歩行者・自転車通行量	7,008人 (H19)	10,000人 (H24)	9,062人 (H21)	①
	空き店舗数	38店 (H18)	30店 (H24)	38店 (H21)	②

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

- ① 街なか居住の推進については、高齢者向けバリアフリー市営住宅建設事業を着工するとともに滝川市立病院改築事業が順調に進んでいる。民間活力による集合住宅についても過去に実績よりも下回ってはいるものの、着実に増加している。その他事業についても計画どおり事業を進めることにより、利便性の向上や街なか居住推進の施策など効果が現われていることから目標達成可能と見込んでいる。
- ② 市民活動の活性化については、既存のNPO法人ならびに活動団体と商店街等が着実に連携を図り、情報交換、協力体制が出来つつある。さらには、街なかイベントに農業者、短大生、高校生などの「まちなか応援団」が参画されていることから、目標達成可能と見込んでいる。
- ③ 賑わいの創出については、商店街拠点づくり事業や賑わい再生ロード事業などの事業展開により中心市街地の再生・活性化を図り、賑わいの創出、回遊・滞留ルートの形成が出来つつある。街なか通行量については、天候等に左右されるものの増加している。今後、市立病院改築事業や市立図書館の移転などが完了予定であることから、目標達成可能と見込んでいる。しかしながら、空き店舗数については、計画掲載事業である情報発信事業やチャレンジショップ事業により新規出店はあるものの、経済情勢の低迷及び購買力の低下、さらには、商業者の高齢化、後継者不足により閉店を余儀なくされる状況にもあり、目標達成は厳しい状況にある。

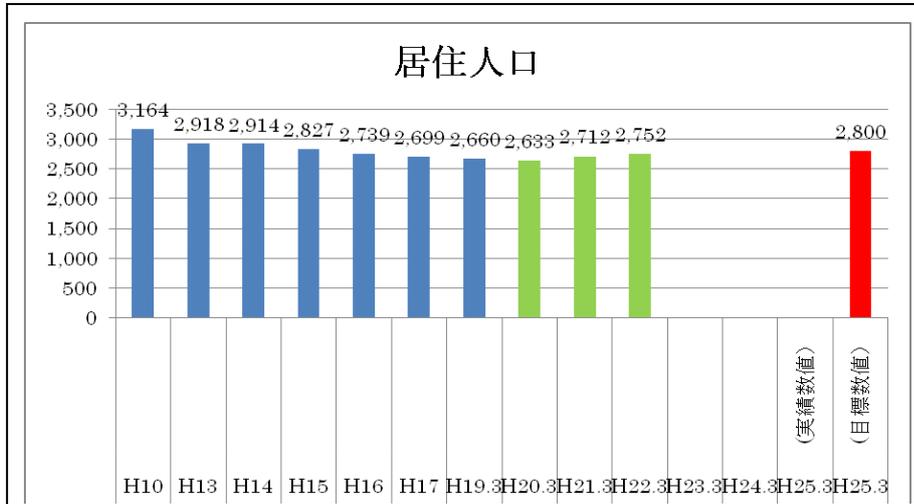
4. 今後の対策

基本計画の実施2年目を経過し、賑わいの創出をはじめとする各種の取組みにより成果が徐々に上がってきていることから、基本計画掲載事業を積極的に推進していくことにより設定した目標値を達成したい。しかしながら、空き店舗対策として情報発信事業やチャレンジショップ事業、家賃助成を実施しているところであるが目標達成に困難が予想されることから新たな対策を講じたいと考えている。

目標「住みよい生活ステージ形成によるまちなか居住の推進」

「街なか居住人口」→目標設定の考え方基本計画 P57～P59 参照)

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H18	2,660
(19.3.31)	(基準年値)
H19	2,633
H20	2,712
H21	2,752
H22	
H23	
H24	
H25	2,800
	(目標値)

※調査月；3月

※調査主体；滝川市

※調査対象；中心市街地の居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅建設事業（事業主体名）滝川市

事業完了時期	【未】平成22年度
事業概要	民間投資による共同住宅建設を促すために行政の役割である公営住宅を先導的役割として、中層建て20戸で冬期間にも快適な生活が享受できる高齢者向けバリアフリー住宅を建設する。
事業効果又は進捗状況	平成21年度は、建設工事を着工し、2割の出来高となっており、工事の工程も順調に進んでいる。平成22年9月を完成予定とし、10月に入居者を受け入れる予定をしている。入居者見込み数 53人

②. 街なか居住推進補助事業（事業主体名）滝川市

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	民間投資による共同住宅建設を促すために補助制度の運用により、街なかでの居住者を増加させる事業
事業効果又は進捗状況	平成21年度は、問い合わせが10件、相談3件あるが、制度は活用されなかった。市内金融機関、建設業界、建築士会などから制度の活用について聞き取り調査を実施し、市内部協議を進め、民間投資の意欲向上のため、平成22年度から補助制度の拡充(非木造10戸から6戸、木造6戸から4戸とする)を図ることとした。制度拡充により、市内企業から事業化に向けた提案書を策定したいとの申し出があることから、事業展開が見込める状況にあることから、一定の成果が見込まれ

る。
平成 20 年度(実績なし)、平成 21 年度(実績なし)

③ . 街なか居住推進インフォメーション事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【実施中】平成 24 年度まで
事業概要	市元気タウン推進室において街なか居住に関するワンストップサービス総合窓口を開設する事業。
事業効果又は進捗状況	平成21年度は、不動産会社、商店街振興組合、建設業者など仕組みや情報収集の整理を行い、情報発信に向け取り組んでいる。

④ . 滝川市立病院改築事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【未】平成 23 年度
事業概要	中心市街地エリアに位置する滝川市立病院は、主要部分が築後 40 年以上経過し、狭隘化、老朽化及び耐震診断の結果、目標耐震性能を満たしていないことから、現在地で改築をする。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年度は、本体工事が本格化し5割の出来高となり、工事の工程も順調に進んでいる。平成22年11月完成予定とし、平成23年4月に新病院の開院を予定している。

⑤ . 図書館移転事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【未】平成 23 年度
事業概要	現図書館は市街地のはずれに位置し、老朽化により建て替えが必要になったが、中心市街地の活性化のために現在地ではなく、市役所の 2 階及び地下 1 階の一部を有効活用する形で移転する。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年度は、よりよい図書館にするためにワークショップ等を開催し、市民意見の聴取を行い実施設計に反映させる取り組みを行った。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

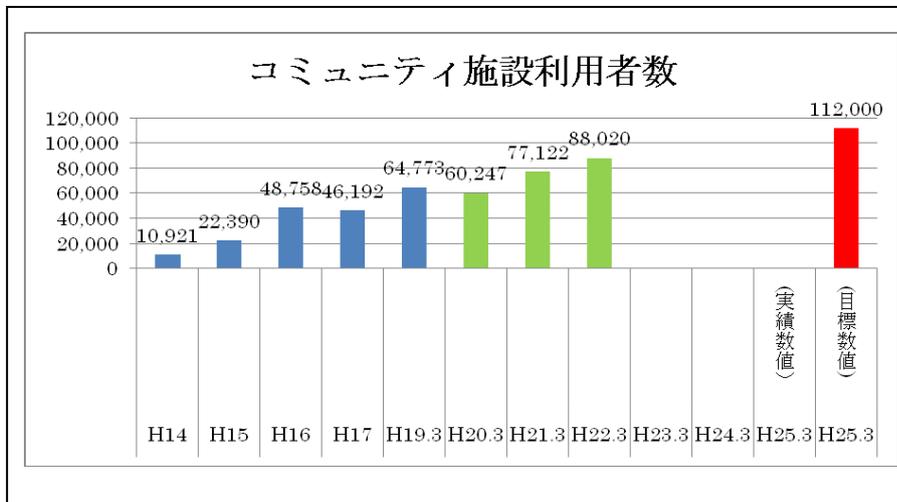
街なか居住人口は、平成 19 年から平成 20 年度に民間活力による集合住宅建設 (1 棟~22 戸×2、16 戸×1、12 戸×1) 及び老人ホーム (1 棟 56 戸)、高齢者向け共同住宅 (1 棟 35 戸×1) が建設され満床状況になっている。また、平成 21 年度には民間活力による集合住宅 (1 棟~8 戸×1 建設済、1 棟~8 戸×1 建設中) が建設された。平成 22 年度には、市営住宅事業 (1 棟 20 戸) が完成するとともに、民間投資による小規模多機能居宅介護併設の高齢者専用賃貸住宅等 (1 棟 23 室) の計画が示され実施に向け協議が進められていることから、居住人口の増加が見込める状況にある。

さらには、民間投資の意欲向上のため街なか居住推進補助事業の拡充、街なか居住推進インフォメーション事業の充実を図るとともに、現在、進めている市立病院改築事業、図書館移転事業の取組みも順調に進んでいることから、目標は達成できるものと考えられる。

目標「商店街協働コミュニティ形成による市民活動の活性化を図る」

数値目標の達成状況（「コミュニティ施設利用者数」→目標設定の考え方基本計画 P60～P65 参照）

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H19	64,773 (基準年値)
H20	60,247
H21	77,122
H22	88,020
H23	
H24	
H25	
H25	112,000 (目標値)

※調査月；3月

※調査主体；滝川市

※調査対象；中心市街地活動センター、くつろぎ処、チャレンジコミュニティカフェ、たきかわホール、街なか地域交流施設「くるる」、暮らしのショールーム

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街拠点づくり事業（事業主体名）滝川市商店街振興組合連合会

事業完了時期	【実施中】平成23年度
事業概要	<p>空き店舗を活用した2拠点整備とチャレンジショップ等の空き店舗対策事業をパッケージで実施し、商店街の集客力向上と魅力アップにつながる事業を拠点で展開することにより商店街の賑わい創出を図る事業</p> <p>●調査対象(2拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くつろぎ処 (中心市街地商店街の活動拠点として各種イベント等での活用、地元農産物を活用した食事を提供するレストランなどを兼ね備えた拠点。) ・チャレンジコミュニティカフェ (若者向けのカフェとして設置。若い世代を中心に、短大生、高校生の力を借りながら、街なかの賑わいを取り戻すための拠点。)
事業効果又は進捗状況	<p>くつろぎ処及びチャレンジカフェともにそれぞれが特徴を生かした事業を展開し集客力向上に取り組み着実に利用者が増えている。平成21年度の利用者実績としては、くつろぎ処 9,972 人、チャレンジコミュニティカフェ 14,869 人であり、街なかの賑わい拠点施設である。</p> <p>・くつろぎ処は、各商店街や市民団体の連携拠点として、各種の街なかイベント拠点会場として利用されている。農業者の協力のもと開催され</p>

	<p>た軽トラでは、取扱産品を食材とした特別メニューの提供など地元PRに努め賑わいの創出に寄与している。</p> <p>・チャレンジコミュニティカフェは、年間を通して多くのミニイベント(オリンピック応援、J2コンサドーレ札幌応援、日本ハム応援、高校生による街なか仮装パレードなど)を開催し、中心市街地内の賑わいに大きく寄与している。</p>
--	--

② . 中心市街地活動センター設置事業 (事業主体名) 滝川市

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	中心市街地活動センターは、NPO法人、市民活動団体、まちづくり関連団体、商店街等連携のもとに賑わい再生ロード事業など様々な事業に取り組む拠点であるとともに中心市街地において誰でも気軽に立ち寄れる魅力ある施設となることを目指す
事業効果又は進捗状況	事業実施には至っていないが、市民の交流コミュニティの拠点(仮称まちづくりセンター)として「住みやすい生活ステージ形成」を推進し、市民活動の活性化、賑わいの創出にも寄与できる事業を展開することとしている。事業効果としては、12,000人の利用を見込む。

③ . NPOたきかわホール事業 (事業主体名) NPO法人たきかわホール

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	滝川市が所有する「たきかわホール」を文化活動関係者のみならず学生や主婦層、中高年齢者層にも文化活動等に対する関心をもってもらう事業を展開することにより、市民交流活動の活発化と商店街の賑わい創出を図る事業。
事業効果又は進捗状況	平成21年度は、自主事業として「日本ハム日本シリーズパブリックビューイング」をはじめ地元出身の落語家、人形劇上演など様々な取り組みを行うと共に文化活動団体と連携し、特徴を生かした事業を展開し集客力向上の取り組みを行っているが、平成21年度利用者数13,639人と減少しているが、一定の成果が見られる。平成22年度はキャラーコーナーの活用策を再検証し、利用者増に努力する。

④ . 街なか地域文化交流広場く・る・る (事業主体名) NPO法人たきかわホール

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	駅前文化ひろば「く・る・る」は、市民のコミュニティ施設として、駅前再開発ビル内において事業展開している。施設には、スタジオや会議室が設置され、各サークルや文化団体など市民に活動の場を提供しており、ビーズアクセサリーやパッチワーク等の手づくり作品などの委託販売コーナーや来街者の憩いの場が設けられている。自主的なイベントを企画し、商店街をはじめ高校生や短大生もボランティアとして参加し賑わいを創出するとともに多くの市民に利用されている。

事業効果又は進捗状況	平成21年度は、自主事業として「夏まつり、ながいも祭り、く・る・る de レトロ、手づくりフェスタ」などを実施し、イベントを通じた幅広いコミュニティを形成している。特徴を生かした事業を展開し、賑わいづくりや集客力向上に取り組むことにより、平成21年度は利用者数 37,568 人と増加したことから、一定の成果が見られる。
------------	--

⑤ . 暮らしのショールーム運営事業（事業主体名）滝川消費者協会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	300人を超える会員の拠点施設として、恒常的な活動により日常の賑わいを創出するとともに、イベントの開催や消費者相談、休憩コーナー（コーヒー、お汁粉等の提供サービス）を通じて賑わいとコミュニティ形成に寄与している事業である。
事業効果又は進捗状況	平成21年度は、自主事業として「消費者相談、リフォーム教室、手づくり教室」を基本とし、消費者祭りやミニイベントを開催、さらには、街なかイベントにも積極的に参画し、「りやかあさん」など特徴を生かした事業を展開し、コミュニティの醸成や集客力向上の取り組みを行い、平成21年度は利用者数 11,972 人と増加したことから、一定の成果が見られる。

⑥ . 中心市街地活性化イベント事業（事業主体名）滝川市中心市街地活性化協議会

事業完了時期	【実施中】平成24年度まで
事業概要	商店街の賑わい再生を目指した市民生活・活動のステージとして中心市街地を活用し、市民活動の活性化を図る事業
事業効果又は進捗状況	平成21年度は、新たに「街なか来てくだ祭」を夏・秋あわせて2回開催し、多くの市民で賑わいの創出が図られ、商店街の活性化が図られた。また、商業者と農業者、市民の協働事業として「たきかわ未来プロジェクト」による軽トラ市や地元菓子店と消費者が地元農産物を活用した「スイーツアクションプログラム」の取り組みが行われ、一定の成果が見られる。

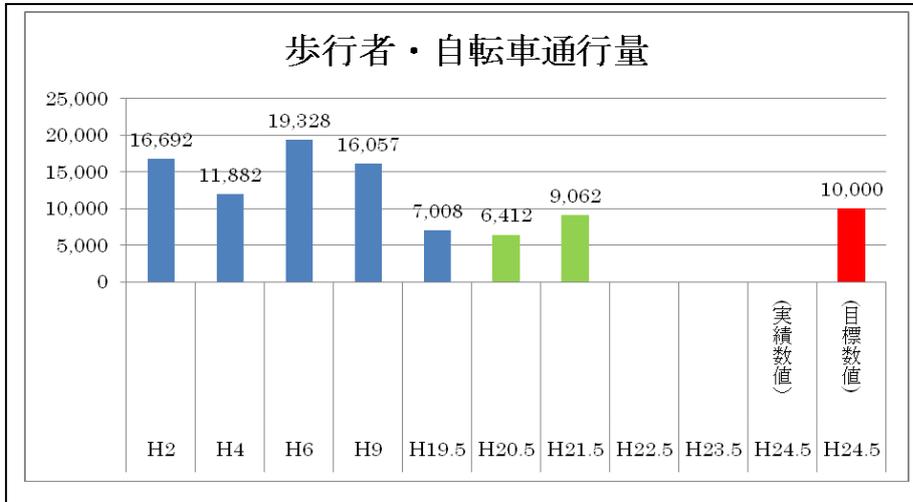
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

コミュニティ施設利用者数は、基本計画上 6 施設としている。既存の 3 施設（たきかわホール、く・る・る、暮らしのショールーム）については、利用率向上に向けて関係者と協議を行い順調に推移している。また、新規に設置をしたコミュニティ施設の 2 施設については、（くつろぎ処、コミュニティカフェ）それぞれの特徴を生かし利用者の拡大に努めている。また、中心市街地活動センターについては、平成 23 年の着手に向けて、地権者と協議を進めている状況である。中心市街地の賑わい再生のため、各々組織が培ってきたコミュニティをどのように商店街と連携・協働できるかが、最も重要なポイントであり、その実現に向けて取り組んでいくことが、中心市街地の魅力が強化され、来街者の回遊・滞留の促進に繋がり、目標は達成できるものとする。

目標「回遊・滞留ルートを形成し、街なかに賑わいを創出」

数値目標の達成状況（「街なか通行量」→目標設定の考え方基本計画 P66～P76 参照）

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H19	7,008 (基準年値)
H20	6,412
H21	9,062
H22	
H23	
H24	
H24	10,000 (目標値)

※調査月；年2回（5月・10月）

※調査主体；滝川市

※調査対象；平日5地点において歩行者及び自転車通行量

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 滝川市立病院改築事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 4 参照

②. 図書館移転事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 4 参照

③. 居住人口の増加

- ・ 高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅建設事業 【再掲】 P 3 参照
- ・ 街なか居住推進補助事業 【再掲】 P 3 参照
- ・ 街なか居住推進インフォメーション事業 【再掲】 P 4 参照

④. 中心市街地活動センター設置事業 【再掲】 P 6 参照

⑤. 賑わい再生ロード事業（事業主体名）滝川市

事業完了時期	【実施中】平成22年3月
事業概要	中心市街地を活性化し賑わいを再生するためには、歩きたくなる・行ってみたくなる魅力的な歩行空間と市街地環境が大切であることから、商店街協働コミュニティ形成にかかる事業と連携し、商店街活性化のための空間デザインとコミュニケーションデザインを行い具体的な実証実験を行う。
事業効果又は進捗状況	平成21年度は、3つの装置である「挨拶の装置」「迎客の装置」「集客の装置」づくりについて実証実験を実施し、事業の検証を行うなかで今後

の事業展開について具体的な検討を行う。

①「挨拶」の装置づくりとして、滝川の花である「コスモス」、毎年、郊外の丸加山で「コスモスフェスタ」のイベントを開催しており、多くの観光客で賑わっている。郊外の花畑を中心市街地に現出(大型プランター設置)させ、商店街のフラワーストリート事業と合わせて、滝川らしい季節感にあった色とりどり花で来街者をもてなす。

②「迎客」の装置づくりとして、休憩施設として、見た目の華やかさ・賑やかさと手軽さを考慮して、木製のオープンカフェセットを設置し、飲食拠点施設を中心に、夏期の様々な中心市街地事業のくつろぎ空間として演出をした。さらには、「羊パレード in たきかわ」として、滝川のイメージキャラクター(通称:ラムちゃん)を市民参加型の事業として作品を募り商店街に設置、ウォークラリーイベントとしてとして「ラムちゃんを捜せ」を開催した。

③「集客」の装置づくりとして、商店街のイルミネーション事業に合わせて、商店街のメインストリートや公共施設に「冬の灯」をテーマに約7,000個の紙袋ランターンを設置、多くの市民参加を得て開催した。

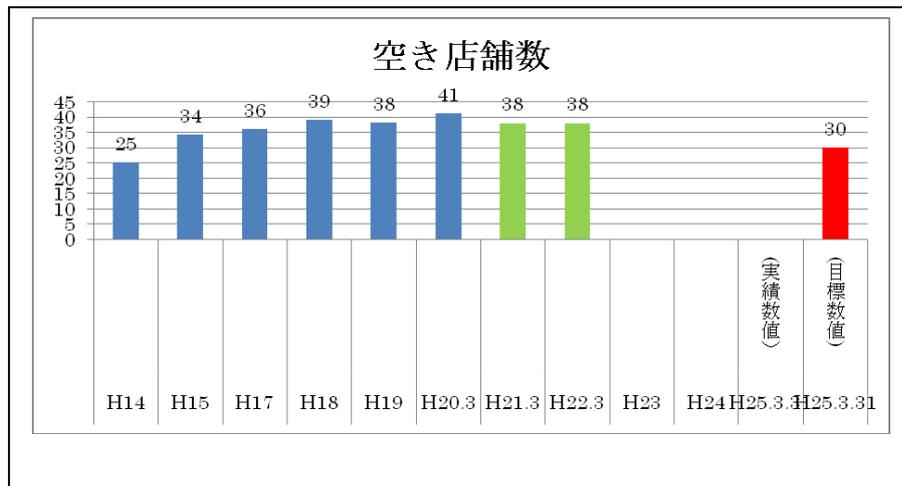
(市民参加型:一般市民、保育所、幼稚園、小学校、NPO団体、商店街、消費者協会、商工会議所、行政)

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

街なか通行量については、来年度市営住宅建設事業が完了し、定住人口が増加が見込めるとともに都市福利施設として整備を行っている市立病院改築事業ならび図書館移転事業が、着実に進捗し、賑わい再生ロード事業も一定の成果が見られることから目標は達成できるものとする。

数値目標の達成状況（「空き店舗数」→目標設定の考え方基本計画 P77～P80 参照）

1. 調査結果の推移



年	(単位) 店舗
H18	38 (基準年値)
H19	41
H20	38
H21	38
H22	
H23	
H24	30 (目標値)

※調査月；3月

※調査主体；滝川市

※調査対象；中心市街地4商店街振興組合の空き店舗

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 商店街拠点づくり事業（事業主体名）滝川市商店街振興組合連合会

事業完了時期	【実施中】平成23年3月
事業概要	<p>空き店舗を活用した拠点整備とチャレンジショップ等の空き店舗対策事業をパッケージで実施し、商店街の集客力向上と魅力アップにつながる事業を拠点で展開することにより商店街の賑わい創出を図る事業</p> <p>○3拠点</p> <p>①くつろぎ処</p> <p>②チャレンジコミュニティカフェ</p> <p>③チャレンジショップ</p>
事業効果又は進捗状況	<p>平成21年度は、滝川市商店街振興組合連合会が中心となり、各商店街において家主と連携し空き店舗情報発信事業のデータ収集を行い、ホームページにおいてPRを図っており、空き店舗の問い合わせや中心市街地活性化協議会の空き店舗補助事業（チャレンジャー育成基金）について対応しているところである。また、チャレンジショップ事業については、現在、3店のチャレンジャーが入居、1年後の独立を目指し事業を展開しているとともに、新規チャレンジャーを募集するなど育成支援を行っている。</p> <p>○平成20年度～3拠点施設設置により、空き店舗（3店減）</p> <p>○平成21年度～チャレンジショップから独立開業（1店）</p> <p>○平成21年度～空き店舗情報発信事業（5店）</p>

②. 賑わい再生ロード事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 8 参照

③. 中心市街地活動センター設置事業（事業主体名）滝川市 【再掲】 P 6 参照

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗数は、基本計画掲載事業について、ほぼ計画通りに実施され各商店街においても家主と連携し積極的に空き店舗情報発信事業を行っており、5店が入居したところである。また、チャレンジショップ事業についてもチャレンジャーの一人が独立開業するなど一定の成果をあげている。しかしながら、計画掲載事業である情報発信事業やチャレンジショップ事業により新規出店はあるものの、経済情勢の低迷及び購買力の低下、さらには、商業者の高齢化、後継者不足により閉店を余儀なくされる状況にもあり、現時点においては数値目標である「空き店舗の減少」は達成の見込みは厳しいと考える。

今後の対策としては、平成21年度に地元金融機関からの寄付を受け、滝川市中心市街地活性化協議会内にチャレンジャー育成基金（空き店舗対策補助金）を新たに創設した。また、平成22年度にはアーケード等共同環境施設等の負担金等（テナント負担）が、新規出店者の阻害要因となっていることから、商店街振興組合や地元関係者が、共同環境施設等について今後のあり方や負担方法などを検討する組織を立ち上げ、調査検討事業に取り組む予定であり「空き店舗の減少」の目標達成に向け努力する。